



平 成16年、大分県竹田市で開催された「全日本実年ソフトボール大会（50歳以上男子）」での出来事です。

0対5で迎えた7回裏（この回に点数が入らなければ敗退）、しかも2アウト。ネクストバッターズサークルの俊足の1番バッターと、采配を振るう中村さんと目が合った瞬間、お互いがうなずきました。ベンチで声援を送っていた選手を中村さんが代打に起用。その選手が見事ヒットを放ち、相手のエラーも重なり、その後、見事逆転勝利。中村さんが赤見支部選抜チームの監督時代に印象に残る試合の一つだそうです。

平成21年から女子ソフトボールチーム「佐野ベリーズ」で采配を振るうようになってからも、全国大会、関東大会で何度も優勝を経験しており、「自分も選手時代ベンチスタートの経験があるので試合に出られない気持ちには痛いほど分かる。エラーや三振はしたくてするのではない。たくさん選手の試合で活躍してもらいたい。試合の後の反省会でみんなが笑顔になれる指導を心掛けていく」とのことです。

また、今年行われた北海道での全国大会、東京での関東大会出場の話に触れ、その間

みんなが笑顔になれるように

家庭を守ってくれた奥さまに対し、感謝の気持ちで垣間見ることができました。地元小学校の学童野球から始まった監督人生は今年で53年目になるそうです。子どもの頃指導した選手たちが立派な大人になった今でも「監督、監督」と声を掛けてくれると目を細めていましたが、その意味が今回お話を伺う中で理解することができました。

「全日本実年ソフトボール大会」で見事逆転勝利を収めるきっかけを作った代打の選手は10年ほど前に亡くなられたそうですが、病床で代打ヒットの場面の動画を何度も眺めていたそうです。チーム全員がその選手が病気に勝利し、逆転となることを望んでいたのに叶うことはなかったと中村さんは目を潤ませていました。

「ノックバットが振れるうちは、勝ち負けよりも、楽しく、そして選手が全力を發揮できるような試合を目指していきたい」と語る中村さんには、次の筋書きのないドラマのシナリオが描かれているようです。

（市民記者 中里聖子）

キラリ話題の人

としゆき
中村 俊之 さん

- ・相互型地域スポーツクラブ佐野中央スポーツクラブ会長
- ・女子ソフトボールチーム「佐野ベリーズ」監督



▲全国スポーツレクリエーション祭ブロック優勝

ようこそ 市長室からこんにちは！

早いもので今年も残すところ1カ月となりました。

さて、今年を振り返りますと、3月には昨年の「天明鑄物」の地域団体商標登録に続き「天明鑄物生産用具及び製品」が国重要有形民俗文化財に指定されました。今後も永く継承されるよう、行政として産業と歴史文化の両面からしっかりと後押しを行ってまいります。

4月には、2026年度に休日活動の半分を地域クラブに移行することを盛り込んだ「部活動地域移行推進計画（佐野モデル）」を策定しました。地域移行に向け問題点を検証しながら進めてまいります。

6月から、市民の検診・健診への意識向上と受診率向上のため、40歳以上の方の大腸がん検診、肺がん検診の自己負担を無料化しました。健康診査の受診率を上げ、健康寿命延伸を目指します。

そして、今年策定しました「国際防災拠点さの」の整備方針を踏まえ、8月には市が目指す防災拠点事業を広く市民に知ってもらい、機運を高めるためのシンポジウムを開催しました。今後は2026年からの佐野市総合計画後期基本計画に盛り込めるよう、しっかりとブラッシュアップしてまいります。

10月からは、3～5歳の第2子の副食費と認可外保育施設に通う第2子以降の保育料と副食費を無償化しました。子育ての面からも選ばれる佐野市を目指し、今後も進めてまいります。

今年は多くのイベントや会議に参加し、多くの市民の皆さまとお話することができました。ありがとうございます。忙しくなる年末、体調に気を付けてお過ごしください。

佐野市長
金子 裕





スクールリユースリボン
Instagram▶



地道にコツコツ細く長く続けたい スクールリユースリボン

自分では着ることがなくなっても、制服ってなかなか捨てられませんか。まだ着られるのにもったいないって。

北中学校エリアでボランティア活動している「スクールリユースリボン」では、回収した制服や体操着をクリーニングや洗濯、補修をして必要としている人にリーズナブルな価格で提供しています。

活動の拠点は北中学校のPTA活動用の部屋で、ボタン付けやゴムの付け替えなどのメンテナンスや、事前に連絡のあった購入希望者の対応をしています。

家庭科のボランティアをしていた仲間が集まり、近隣市の同様なリユースの施設を視察し、ノウハウを得ながら3年前に活動を始めた。

「リボン」という名前は生徒たちがつけてくれました。つなげる、再生するといった願いが込められているそうです。

現在の目標は、一緒に活動していただけるメンバーが増えることと回収率のアップだそうです。回収ボックスは、北中学校学区内の小中学校、犬伏地区公民館、城北地区公民館および市民生活センターここねっとに設置してあります。回収ボックスには制服と共に活動に感謝する手紙が入っていることもあり、活動して良かったとモチベーションが上がるそうです。「ごみも減らせるので、このような活動が佐野市全体に広まるといいなと思う」とお話しされていました。

(市民記者 芝口明子)



未来への大きな第一歩 ファンガレイ市中学生派遣事業報告会

11月9日(土)、ニュージーランドのファンガレイ市へ10人の生徒を派遣した際の報告会が佐野市議会議場にて開催されました。

この派遣は10月20日(日)～26日(土)の7日間、次世代を担う本市の中学生に、異文化体験を通して英語力やコミュニケーション能力の向上、グローバルな視野と感覚の醸成などを図ることを目的として実施されました。

報告会では、派遣された生徒一人一人が、ニュージーランドに到着した日から帰国までの日々や全体的な感想などの報告を行いました。



田沼の夜空を綺麗に彩りました 第48回たぬまふるさと祭り

10月27日(日)、佐野市国際クリケット場において第48回たぬまふるさと祭りが開催されました。

今年も市内最大級のクリケットイベント「エンバシーカップ」と同時に開催され、ハロウィン仮装大会やお化け屋敷、抽選会、ステージイベントなどが行われ、多くの来場者で盛り上がりを見せていました。

祭りのフィナーレは、初めての試みとなる「スカイランタン®」。暖かい色に包まれたランタンが田沼の夜空に上がり、会場を綺麗に彩っていました。